

令和7年度 墨田区立桜堤中学校 学校だより <4月号>

NEW EDUCATION AND TRADITION



スローガン：つなぐ伝統 築こう未来

発行日：令和7年4月14日(月)

発行者：校長 吉岡 大司

「しあわせ」なときを想う

校長 吉岡 大司

本校に着任し、3年めとなった学校長の 吉岡 大司（よしおか だいじ）です。

校庭の桜が舞う中で168人の新1年生を迎え、在校生と併せて、全校生徒が513人となり、19学級で令和7年度をスタートしました。昨年度、教室になかなか足が向かない、登校できない生徒のための学級I組（チャレンジクラス）も2年目を迎えました。

さて、曳舟小学校長を含め、7年も経営に携わっていると、私の学校経営の一番の目標を一言でいうと、「しあわせな学校づくり」と感じる時があります。

生徒や保護者、教職員、地域の方までを対象として、そのたくさんの「しあわせ」があふれたら、きっとナンバーワンの学校になれるのではないかと考えています。

その道のりや方策は簡単なことではありません。また、自分一人で考えたり実践したりして叶うものでもありません。さて、皆さんは、この「しあわせ」とはどんな文字を思い浮かべますか。ほとんどの方が「幸せ」でしょう。でも、辞書で「しあわせ」を引くと、

【為合せ・仕合せ・幸(倖)せ】①運命、めぐりあわせ。②その人にとって幸福（幸運）であること。とあります。では、私の「幸福」とは、美味しいご飯を食べているときや大好きなことをしているときかもしれません。では、「しあわせ」のもう一つの意味である「めぐりあわせや運命」を探してみると、「しあわせ」という言葉は、幸福感を表すのではなく、その成り立ちを表している言葉だったことが分かります。「仕 + 合わせる」＝「様々なことが重なり合って、物事は成り立っている」ということです。

良いことだけでなく、たとえ悪いことであっても全て含めての「しあわせ」なのです。

私達は、いつからか「幸福」だけを「しあわせ」と認識してしまうようになり、本来の「仕合わせ」が見えにくくなってしまったようです。何事も縁でありおかげ様なのです。

「しあわせ」の本来の意味を大事にしながら、「しあわせ」あふれる学校にするために、令和7年度も、学校や保護者、地域が一体となり、「生徒の夢実現に向けて、考えて、行動する生徒の育成」を目指し、教職員一同、全力で取り組みます。

今年の始業式や入学式でも、次のような話をしました。 始業式では、【抜粋】

「遊園地」と「原っぱ」ならどちらが好き。「原っぱ」は、特別な施設どころか遊具もないからこそ、そこに集まった子ども達で何をしようか決めるはず。誰かが何かをやり出したら「面白そう」とか「一緒に混ぜてもらおうかな」とかなるかもしれません。その「面白そう」から、自らが動く力と仲間とアイデアを出し合い調整していくような「コミュニケーション力」が生まれます。新しい人間関係を築くためには、そのコミュニケーション力が大切ということです。コミュニケーションの第一歩は笑顔とあいさつです。

そして、私の大好きな言葉「一会一生（いちえいっしょう）」という言葉も紹介しました。これは、一度会ってできたご縁は、一生の宝になるという意味です。

そして、「継続は力なり」です。毎日毎日、ほんの少しずつでも、努力を続けると、勉強が分かるようになったり、部活動で練習していたことがうまくなったりします。大切なことは、自分の夢に挑戦し続けていく、前向きな姿勢なのです。

入学式では、新1年生に向け、「早く中学校生活に慣れて欲しい」「心を大切にしてほしい」「自分の未来を見つけて欲しい」というエールを贈りました。頑張れ新1年生！